

グローバル人材育成プログラム に参加して

酒井 なの葉

Nanoha SAKAI

機械システム工学科 3年

1. はじめに

私は2019年8月16日～9月9日にかけてグローバル人材育成プログラムに参加し、GoogleやAppleをはじめとするシリコンバレーを二日間見学したのち、パークレーにて二週間の研修を行った。

今回のプログラム参加目的は、ホームステイをすることでアメリカの文化を学び、自身の英会話力を試すことである。また、海外で働くことに興味があったので参加することを決めた。

2. シリコンバレー見学

アメリカに到着してからの最初の二日間は、シリコンバレー見学をした。シリコンバレー見学で印象に残ったことは、GoogleやOracleなどの大きな会社は、いかに社員が仕事をしやすい環境を作るかを考えていることである。例えば、無料の食堂やジムがあったり、座席の形式を仕事内容に伴ってオープンな形にしたり、逆に集中できるように周りのものを遮断できるような座席にしたり、勤務時間の自由化である。特に、好きな時間に出勤し、好きな時間



図1 Google 本社



図2 intel 本社

に退社したり、家で仕事をしたり、日本では考えられないこともシリコンバレーでは一般的であることが多かった。また、デザインシンキング考え方は、クレイジーな考え方のほうがより良いものを考え付くことができるとされていることを知った。図1, 2にシリコンバレー見学で訪問した会社を示す。

3. ホームステイ

パークレーにてアメリカ人の女性の方の家に二週間滞在した。海外に行くことが初めてで、ホームステイもしたことがなく、不安でいっぱいであったが、私の趣味であるアクセサリー作りがホストマザーも同じだったこともあり、すぐに打ち解けた。ホームステイ先での食事は、主に朝食はシリアルで、夕食はサラダやサンドイッチであった。必ず一緒に食べなければいけないことはなく、お互いに好きなタイミングでご飯をたべた。デザートには、アイスやケーキを食べさせてくれた。カリフォルニアは二月から十一月は雨がほとんど降らないので、水は貴重とされている。それに伴い、洗濯物を回すのは、週に一度であり、小さな物は、手洗いするように指示された。お風呂に入るのは、五分以内が目安とされた。休日にはホストマザーがサンフランシスコ近代美術館やユニオンスクエアを案内してくれた。ホームステイ最終日の夜には、私が手土産で渡した折り紙を一緒にした。私たちには簡単な折り方も、初めて折り紙を扱う人にとっては、とても難しそうで



図3 折り紙

あった。お礼の手紙と一緒にたくさんの種類の折り紙をプレゼントすると、とても喜んでくれた。折り紙を図3に示す。

4. 企業研修

主に日本製の大工道具や園芸道具、包丁の三種類を販売している企業にて研修を行った。お客様のほぼ100%が現地の方であった。

主な仕事は、接客とレジ打ちであった。それら以外にもデリバリーに同行したり、郵送の準備をしたり、品出しを行った。

接客では、徐々に英語を聞き取れるようになってきたものの、商品の知識が足りないために社員の方やお客様に手間を取らせてしまった。しかし、事情をお客様に説明すると、「いい挑戦だね」「またアメリカにきてね」「頑張って」などと声をかけていただけだったので頑張ろうと思えた。それから、タイミングがあればお客様に積極的に話しかけるようにした。それは、私にとって勇気がとてもいることであったが、母国語の異なる人と会話ができる楽しさを改めて感じる事ができた。喜んで私と会話してくださり、あたたかい街だと感じた。レジ打ちでは、USドルの小銭になれていなかったために、時間がかかってしまった。しかし、数ドルだけでもカード払いをする人が多かった。お金の払い方も日本に比べて、進んでいると感じた。

5. おわりに

参加する前は、初めての海外ということもあり、

かなりの不安があったが、現地に着いてから見るもの聞くもの全てが新鮮で、言語や人種はもちろん、街並みや食べ物、文化など普段見られないものが沢山あったので、毎日ワクワクな気持ちで過ごしていた。

アメリカで過ごす中で、苦労したことはレストランなどでの注文やホームステイ先での英会話だ。普段使用しない単語の発音に苦戦した。文法があっても、日本語英語の発音であると全く通じない。自身の英会話力が低く、ホストマザーに伝えたいことが伝えられず、ホームステイをし始めたころは自身の部屋にすることが多かった。しかし、わざわざアメリカまで来てネイティブの方と話さないのは勿体ないし、挑戦しなければ何も前に進むことができないと感じた。そこで、一人でカリフォルニア大学に散歩に行くことを決めた。そこで、学生二人が話しかけてくれた。つたない英語ではあったが、受け答えをすることが出来た。異国の地の人と会話ができることは楽しいと改めて思った。そのことがきっかけで、上手でなくてもいいから沢山話そうと考え、ホームステイ最終日まで沢山ホストマザーと会話した。英語が話せるようになると、日本語でしか会話できなかった小さな世界からもっと大きな世界で生きることができると感じた。英語が話せなければ、知る事のなかった世界を知ることはとても面白い。もっと英語を勉強したい。そう思えた海外研修であった。

今回の目的である“アメリカの文化を学ぶ”は、ホームステイ先での食生活や町で現地の方の過ごし方を沢山見ることで達成できた。“自身の英会話力を試す”は、達成することができたが、自身の英会話力が低さに痛感した。文法や語彙力はもちろんのこと、それに加え、何度も声に出してアウトプットして状況に応じて使用する文法や単語を身に付けることが必要であると感じた。英語で“会話”する練習を沢山行い、ネイティブの方とより実践的に話す機会を増やしていくべきだと感じた。